



2025 年保護者の会主催の『どてのこまつり』が無事に終わりました。雨にもかかわらず、たくさんの人に足を運んでいただき、たのしいひとときを過ごすことができました。なにより子どもたちの「先生、どてのこまつりたのしかったね。またやろうね」という声が 1 番うれしかったです。どてのこまつりを開催するにあたり、保護者の会運営委員のみなさま、保護者のみなさま、協力していただいた地域のみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。

さて、新田保育園保護者の会の歴史を園だよりで伝えたいと思い、久しぶりに 30 周年誌を開いてみました。昭和 22 年、地域の父母の切実な保育要求と努力によって青空保育からはじまった新田保育園。その後、バス保育を経て現在の土地に園舎を建設、現在 3 代目の園舎となります。青空保育当初から母親たちは、子どもの幸せを願い、働く母親の生活を守りながら民間保育園の困難な運営を支えるために、精力的に活動しています。交通局より廃車のバス 2 台を払下げ、3 丁目の公園から今の場所まで 2 キロを 20 日かけ引っ張って移動。その他販売活動や署名、陳情活動などなど…子どもの保育環境をよくするために行なっていたことをあげるときりがありません。その後、2 代目の園舎を建設する昭和 42 年に維持会（父親だけの会）が結成。10 年後、それぞれの歴史をふまえて、より協力的な組織をと、父母の会が発足しました。（この物語はとてもおもしろいです。実は、卒園児保護者の作家さんが執筆してくれて自費出版で本になっています。読みたい方は事務所まで）

そして、私が保育園に勤めたのは約 30 年前。そのころ、会長（現、代表）は、立候補者がいて投票で選んでいました。ビアホールとバザーの他に、園内整備係や学習会係（父母が企画して講師を呼び学ぶ会）、レク係（日曜日に遠足へ行きました）など、多くの係を保護者が担っていました。バザーに出す『手づくり品』は、クラスで案を考え、クラスごとに出品します。現園舎を建設した 18 年前も、父母の会と共に、建設委員会を立ち上げ、資金集めやオリジナル商品（T シャツ・カレンダー・ワイン等）の販売を行なっていました。働き方改革なんてない時代。土日も飛び周り、園舎が完成した時は、みんなで「本当にピンクの園舎だ！」と大笑いしました。今この園舎で安全にたのしく過ごすことができるのは、これまで新田保育園に携わってくれたすべての保護者、先輩職員のおかげだと改めて感じます。決して昔のことではなく、今につながっている歴史です。

30 周年誌に先輩母たちは、保育園生活を振り返りこう綴っています。「あのころ何度もくじけそうになった。ただ一生懸命走ってきた。各々考え方も価値判断も違う人たちの中で、同じ道を進む。子育てが一段落した今、主人以外の子どもを想う人たちと過ごした日々は、かけがえのないもの」と。

利便性や無駄なことを省くこの時代、保護者の会活動は煩わしい活動かもしれません。保育園の運営が安定している今は、経営的な援助をお願いすることもないでしょう。でもこれからも新田保育園保護者の会には、保育園の運営に関わっていただき、保育園を守り育てる組織でいてほしいです。「困難なことが起きた時、人とのつながりがあればなんとか乗り越えられる」それは先人たちから受け継いでいる確かなことです。時代にあった保護者の会活動と一緒に見つけていきましょう。

文責 濱本昌子

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
十一月				頭 ジラミ チェック・ 新田高校実習	避難 訓練	冬まつり 集会・新田学 園就学健診					健康体育（3・4・5歳児）		冬まつり 集会				りんご組 個人面談		健康診断（0・5歳児）	小学校給 食体験（ぞう組）	やきいも大会・誕生会・写真の日						第1回冬まつり総練習				